

テーマのある旅

学生の街パークレイとサンフランシスコで多文化体験
アメリカNPOボランティア 10日間

に参加しました

日本でもできるかもしれないと、参加をためらった Volunteer のすべてはまさに、あの地でやってこそ意味があったと今、言える。障害者自立支援、学生運動、アートプロジェクトの街、パークレー。私たちはまだ若い。信念を持ち続けていれば、小さくてもなにか、変化を起こすことができるんだ。自ら発してゆく Energy、それを維持する Patience。Diversity の寛容、無償、やさしさ...そして行き着く Volunteer。助けてあげるわけじゃなく、みんなが生き易いように、お手伝いさせていただくという spirit。だって Volunteer って、結局は自分のためでもある。アート&ソウルフェスティバルで叫んだ "Donatio~~~~~n!!!!!!"、ゴスペルの高音に胸が高鳴りこぼれた涙、口を糊するおばあちゃんから差し出された青りんご。すべては私の血肉となり、体内を循環する。吸収され、未来の私を少しずつ、けれど確実に成長させるだろう。

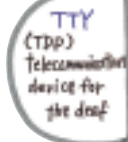
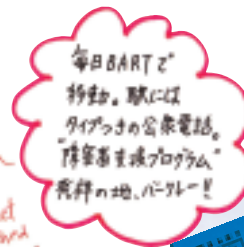
Volunteer はしてあげるんじゃない。やっているから偉いでもない。むしろ、させていただく。おんなじ時代、おんなじ場所に暮らす私たちが、ともに楽しむために。ともに住みよく、生きるために。

この旅で私が得たものは書きつくせないほどある。プログラムに組み込まれていないものの、見えないけれど心にしみ込んでいるものも多い。今は大切に温めていよう。それらがある程度まとまったら、またパークレーの地を訪れたい。"See you again!!" と言って別れた人たちに会いたい。そのとき自分の眼に映るものを知りたい。

旅の終わりにいつも思う。

——感謝。

この旅で出会ったすべてに人へ。
送り出し、待っていてくれる両親へ。
ありがとう！



Glide Church (グライド教会)
1931年、メソジスト派のリン・グライド牧師に教会。1960年代にアフリカ系アメリカ人のセシル・ケリスが伝道的な方針や習慣を打ち破り、黒人の牧師となった。70年代にはベトナム戦争がエスカレートする中、SFにおけるカウンターカルチャーの大集合の場所として知られるように。SF中で30年以上にわたり、性別、年齢、人種を問わずプログラムやサービスを提供している。

ミール・サービス
@ Glide Church
1日3回、食事を無料で配給。貧困層やホームレス、障害者や高齢者など、困窮者から成る20人のスタッフにより9年に100万食以上作られている。



Mural of the Mission

ミッション地区は、ミューラル（壁画）が有名。壁画はメキシカンコミュニティの一部として存在し、歴史、文化的遺産を継承する大衆芸術がメキシコ20世紀以来の伝統として始まった。チカノ（メキシコ系アメリカ人）や60年代の公民権運動は、新しい世代の壁画アーティスト達に刺激を与えた。バルミニアリイ（路地）につくられたコニークな壁画の世界。ミューラルひとつひとつには強いメッセージが込められている。

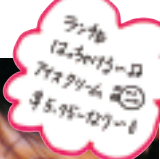
壁画ツアー



旅のアルバム制作者



東京医科歯科大学
大学院
石口 阿希



パークレイYMCA 宿泊施設
BERKELEY YMCA RESIDENCE



午後3時を過ぎた昼下がり、あんまりいいお天気なので、4人でケーブルカーに乗りまして～目指すは "Fisherman's Wharf!!"